



### 55 野中寺のさざんか<sup>府</sup>

樹 高：5m 幹周り：1.6m  
 樹 齢：不明 指定年：昭和56年6月1日  
 所在地：羽曳野市野々上5丁目9-24  
 交 通：近鉄南大阪線「藤井寺」駅から、近鉄バス行き  
 羽曳山住宅前方面行き「野々上」下車すぐ

このサザンカの枝と枝はある部分で結合し、またその先へと伸びています。枝が結合することから縁結びのサザンカと呼ばれているようです。根元で二つに別れた幹の一つが近年花を付けなくなりました。大切に育ててきたサザンカが枯れてしまったのはたいへんです。回復するためにできることをと樹木医と相談しながら治療や手入れの方法を探しています。

### 56 蓮光寺のさざんか<sup>府</sup>

樹 高：8m 幹周り：1.2m  
 樹 齢：150年～200年 指定年：昭和50年3月31日  
 所在地：大阪狭山市東野中2丁目987  
 交 通：南海高野線「狭山」駅下車、東へ徒歩1.1km

蓮光寺の境内にあるサザンカです。幹はかつて腐食し、治療・補修を受けていますが、樹勢は盛んです。大きく伸びた太い枝を濃い緑の葉が覆う姿は力強さを感じさせますが、初冬には美しい桃色の花をつけ、樹の表情が艶やかに一変します。



## サザンカ

サザンカはツバキ属ですがツバキとは異なる種で分布も葉や花もよく似ていますが、秋から冬にかけて薄いピンクや赤い花を咲かせる点でツバキとは異なりま

す。最も大きな違いは花びらが一枚ずつバラバラに散るとい点です。（「つばき」については p 41 参照）



57

## 57 春日神社のしいの社叢<sup>かすがじんじや しやそらう</sup> 府

樹 高：10～15m 幹周り：4m

樹 齢：400年 指定年：昭和56年6月1日

所在地：寝屋川市国松町20-4

交 通：京阪本線「寝屋川市」駅から、京阪バス「三井  
団地」き「国松北口」下車、南東へ徒歩400m

樹高10～15mで幹周り4m程度のシイの巨木が、社殿をとりかこむように群生しています。住宅地のなかにうっそうとした神社景観をつくりだしています。



57

## シイ

シイはブナ科シイ属の常緑高木で、照葉樹林の代表的構成種です。温暖な気候を好むため主として関東以西に分布しています。巨樹に育ちやすく、樹冠の丸いこんもりした姿になります。小さめの葉は先のとがった卵形で、実はかしのドングリのような「帽子」はなく、熟すと全体を包む「包」が裂けて黒い実が出てきます。生でも食べられるため縄文時代から重要な食物資源として親しまれてきました。軽く煎ると香ばしくほのかな甘みがあるため、現在もおやつにして食べている地域があります。

シイタケはシイなどのブナ科の樹木に寄生するキノコで、日本には古くから自生していました。現在は広く栽培が行われており、原木栽培ではクヌギやコナラの原木（ホダ木）に菌を植え付けたシイの木の木片（駒木）を打ち込む方法が確立しています。中国、韓国をはじめヨーロッパでも栽培されており、イギリスやフランスでも shii-take の名で流通しています。

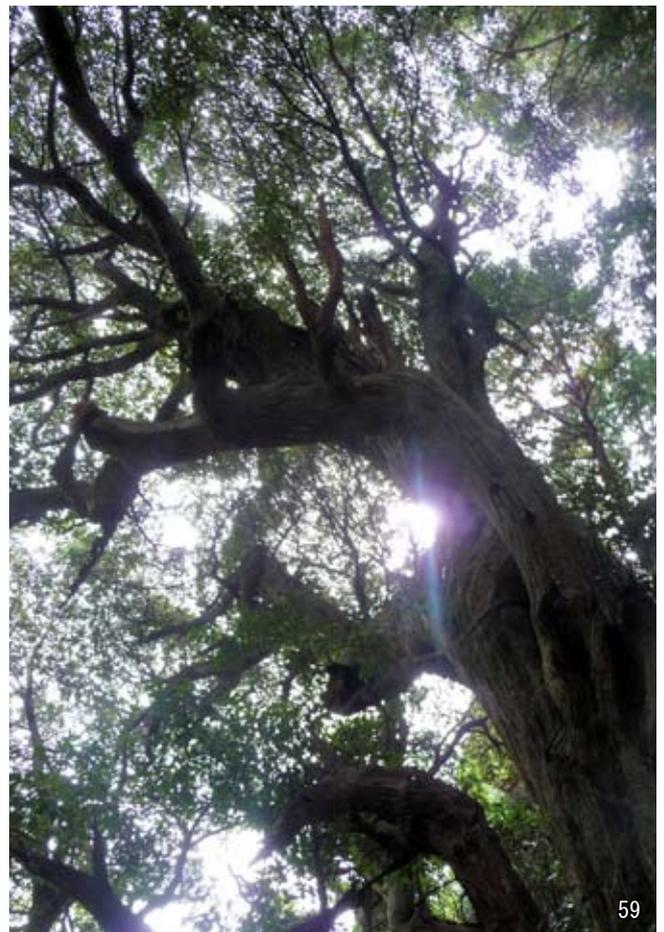


58

### 58 若宮神社のしいわかみやじんじや

樹高：20m 幹周り：3.9m  
 樹齢：400年～500年 指定年：昭和49年3月29日  
 所在地：能勢町能勢町倉垣627  
 交通：能勢電鉄「妙見口」駅から、阪急バス奥田橋・能勢町宿野方面行き「倉垣」下車すぐ

古くからある能勢町倉垣の集落のほぼ中心にあり、狭い通りから一本道の先に鳥居が見えます。この樹は、途中でぱっきり切れ、幹の根元には病害虫による空洞が残っています。倒木防止の強固な鉄製の支柱に支えられてはいますが、枝を伸ばして、今もこの樹は生きています。



59

### 59 八坂神社のしいやさかじんじや

樹高：15m 幹周り：5m  
 樹齢：400年から500年 指定年：昭和49年3月29日  
 所在地：能勢町長谷古野117  
 交通：能勢電鉄「山下」駅から阪急バス73・76系統「森上」下車、西へ徒歩3.5km

能勢町長谷の集落の中に八坂神社があります。鳥居の下から山道（右側）に入り歩くこと約10分。森の中にひと目でそれとわかる巨樹がそびえています。人と出会うことのない寂しい山道、でも、この樹に出会えてよかったと思わせてくれる巨樹です。



58

## スギ

スギはヒノキ科スギ属の常緑高木で、日本の原生種で、屋久スギに代表されるように長寿でも知られています。まっすぐに育つ性質で加工性にも優れていることから、最もポピュラーな建築材として広く植林されており、一説には国土面積の12%をスギ林が占めているということです。

スギの語源には、まっすぐに育つことからきた「直木（すぐき）」という説と、横にはびこらないことからきた「進木（すすぎ）」という2説があります。

針のようにとがった葉が枝に密生し、円錐形の美しい姿をしています。そして春先に小さな球形の花を一齐に開花させます。強風がふくと美しい樹形そのままに薄いオレンジ色の花粉が飛散するのが見られます。

(次頁につづく)

## 60 大沢のすぎおおさわ 府

樹 高：20m 幹周り：6.7m 枝張り：32m

樹 齢：800年 指定年：昭和51年3月31日

所在地：島本町大沢59

交 通：JR「高槻」駅から、高槻市営バス「川久保」行き  
終点下車、北東へ徒歩3.2km

島本町の北部大沢集落の東の山腹斜面にあります。山道入口には看板が立っています。すぎは直立する性質を持ちますが、本樹は、根元と地表から4mの位置でそれぞれ、おおきな枝を伸ばします。枝張りは最大17mにもおよび、府内で稀にみる巨樹です。根を踏みつけると樹木に悪影響があるため、柵がめぐらされ保護が図られています。



60

## 61 金剛寺のすぎこんごうじ 府

樹 高：30m 幹周り：5.2m

樹 齢：500年 指定年：昭和48年3月30日

所在地：河内長野市天野996

交 通：近鉄・南海「河内長野」駅から南海バス「サイクル  
センター・光明池駅」方面行き「天野山」下車すぐ

金剛寺境内の北東隅にあり、境内林は文化庁が設定した「ふるさと文化財の森」になっています。その森の入口で多くの樹木の中でも抜きん出た存在感を持つ一本のスギが、天高く伸びています。スリムで直線的な幹と、がっしりした足元の根の力強さが、対照的です。

### スギ（前頁のつづき）

この大量の花粉が現代では花粉症の原因となり社会問題化しています。この花粉症に人々が悩まされるようになったのは戦後のことであり、たかだか50年です。多くの人に恨みをかっているスギ花粉ですが、この50年、花粉が変化したのではなく、私たちの社会が変化した結果だということをスギのために弁明したい気がします。褐色の樹皮は縦に裂ける性質があり、ヒノキの樹皮と同様屋根葺き材として利用されてきました。

材は生育条件によって質が異なりますが、乾燥すると軽く、耐久性もあることから建築材として広く利用されており、北山杉のように若木の木肌の美しさを生かして書院建築や茶室建築に使われるなど、高級木材としても利用されています。また、水に強いことから、古代より船材としても活用されています。さらに、乾燥した葉の粉末は線香の材料になるなど、古来人とのつながりが深い木でもあります。



61